

優 秀 賞

水の未来

茨城大学教育学部附属中学校

三年 近 納 空 良

地球は水の惑星と呼ばれていますが、遙か昔、地球はマグマの海で、水は水蒸気として存在していました。その後、地球が急激に冷えたことで雨となって地上に降り注ぎ、海や川が生まれました。こうして水の循環が始まり、人類が大河のほとりに文明を築いたことで、今日の生活の基礎が形成されました。ところで、皆さんは「水」と聞くと何を思い浮かべますか。雨や水道水、飲料水などいろいろなことを連想するのではないのでしょうか。水は、それだけ多くのことに利用され、私たちの生活と切り離すことができない重要な資源となっているのです。

水利用の一つとして、発電が挙げられます。火力・原子力発電は、発生させた熱で水を水蒸気にし

てタービンを回し発電しています。また、水力発電は水の位置エネルギーを利用し水車を回して発電しています。この水力発電に利用されているダムですが、ダムは発電以外にも水利用に関して重要な役割を二つ担っています。

一つ目は、洪水調節です。大雨が降った時、ダムに一時的に水を貯めることで川が氾濫することを防いでいます。

二つ目は、水資源の確保です。水道水の他、農業・工業用水として使用するための水を溜めておくのです。また、こうすることによって長い間雨が降らなかつた時の干害に備えることにもなっています。このように、水は私たちの生活を豊かにしていますが、水が地球を守ることも注目されていることをご存知でしょうか。厳密に言えば水と言うより水を素なのですが、近年、水素を燃料とした乗り物の開発が進んでいます。水素は、ガソリンなどの燃料と違って燃やしても水しか排出しないため、地球にとっても優しく、排出した水からまた水素を作ることができるため、資源が枯渇する心配がないのです。

しかし、今、私たちに多くの恵みをもたらされてきている水が、私たちの手によって危機にさらされています。具体的には水質悪化や海洋汚染です。

僕は子どもの頃から生き物が大好きで、水辺の生き物図鑑を見た時に実物を見てみたいという欲求に駆られ、田んぼや川に出かけたことがあります。その時の思い出は、生き物が全く存在しない濁った水が流れている風景です。後日、父が子どもの頃はメダカや蛍などの生き物がいたけれど、農薬や水路のコンクリート化などによってどんどん生き物が減ってきているという話を聞いた時、僕はとても悲しい気持ちになりました。なぜなら、人間のエゴで何の罪も無い生き物たちがその数を減らしているという事実を知ったからです。

僕は、今こそ水に恩返しをするべきだと考えます。具体的にはSDGsの取り組みを行うと良いと思います。SDGsとは、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す開発目標です。節水など自分たちができる身近な取り組みを心がけることで、「塵も積もれば山となる」という言葉があるように、

後に大きな効果に繋がると思います。私たちは水を上手に活用して生活してきましたし、これから先も水と共に生活していくことでしょう。

そんな中、水が今よりさらに悪い状態になってしまったらどうでしょう。困るのは自分たちだけでなく、これから生まれてくる人たちにも大きな影響を与えてしまうことになります。水を守ることは地球の未来を守ることに繋がっているのです。

この星の未来は私たちに託されています。どう生きるかは自由ですが、地球は一つしかありません。皆で協力して水を守り、地球と人類の未来を共に創っていきましょう。